

平成 22 年 6 月 7 日現在

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2007～2009

課題番号：19330091

研究課題名（和文）IT人材の国際移動がアジアのIT産業発展に及ぼす影響の地域比較

研究課題名（英文）An comparative study by region on the patterns of development of Asian IT industry through the global mobility of IT talented manpower.

研究代表者

夏目 啓二 (NATSUME KEIJI)

龍谷大学・経営学部・教授

研究者番号：10175515

研究成果の概要（和文）：

研究成果は、『アジア ICT 企業の競争力 - ICT 人材の形成と国際移動』（ミネルヴァ書房刊、2010年4月）としてまとめられた。本研究の課題は、二つある。一つは、台湾、韓国、中国、インドのアジア ICT 企業の発展パターンは異なっており、ICT 産業の特定セグメントに専門化していることを解明すること。他の一つは、このアジア ICT 企業の研究開発力と産業発展には、アメリカと日本からの ICT 人材の国際的な移動が、貢献していることを解明することである。

研究成果の概要（英文）：We accomplished a research result as a new book, “The Competitiveness of Asian ICT firms: the training and international mobility of high talented manpower.” A new book has two themes. One is to clear that the pattern of development of Asian ICT firms including Taiwan, Korea, China, India are different with specified segment industries. Another is to clear that capabilities of research and development of ICT firms and the industrial development in Asia are due to the international mobility of ICT talented manpower from U.S. and Japan.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2008年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
2009年度	3,200,000	960,000	4,160,000
年度			
年度			
総計	12,500,000	3,750,000	16,250,000

研究分野：経営学

科研費の分科・細目：国際経営

キーワード：ICT企業、ICT人材、アジア、人材育成、帰国人材、頭脳循環

1. 研究開始当初の背景

当該分野に関連する国外の研究は、アメリカ IT 企業のオフショア・アウトソーシングがインドや中国という各国別に展開されていることを解明してきた。また、これに先立

つ研究は、アジアの各国からの IT 人材がアメリカへ「頭脳流出」する段階から、再び本国へ「頭脳環流」するようになりアジアの IT 産業の発展に貢献したことを解明してきた。国内の研究においてもアジアにおける産業

集積の研究として各国別に、また、地域的な産業集積間の関連の研究が蓄積されてきた。国内外の先行研究は、IT産業がグローバルな国際分業構造にあり、アジアにおけるIT産業もそのなかに位置づけられて地域的な発展を遂げてきたこと、また、アメリカからのIT人材のアジアへの国際移動が、その発展に重要な役割をはたしたことを解明してきた。

2. 研究の目的

本研究は、1990年代以降、アジアで急速に進んだIT産業の発展を日本とアメリカからのIT人材の国際移動という人的側面から解明するものである。本研究は、アメリカと日本からのIT人材のアジアへの国際移動が、各国のIT産業の独自の発展に貢献したことを解明する。

3. 研究の方法

この目的のため本研究は、アメリカと日本からのIT人材という知識労働力の国際移動についてIT企業にヒアリング調査を実施し、中国(大連、北京、上海)、インド、台湾、韓国などアジア各国・地域のIT産業の比較を行う。

4. 研究成果

本研究成果は、『アジアICT企業の競争力 - ICT人材の形成と国際移動』(ミネルヴァ書房刊、2010年4月、258+v頁)としてまとめられた。本研究の課題は、二つあった。一つは、台湾、韓国、中国、インドのアジアICT企業の発展パターンは異なっており、ICT産業の特定セグメントに専門化していることを解明すること。他の一つは、このアジアICT企業の研究開発力と産業発展には、アメリカと日本からのICT人材の国際的な移動が、貢献していることを解明することである。

本研究の学術的な特色は、アジアにおけるICT産業の発展を人的な移動と交流の側面から解明したところにある。本研究の独創性は、中国(大連、北京、上海)、台湾(台北・新竹)、インド(バンガロール)、韓国(ソウル)におけるICT人材と産業集積の発展パターンの地域比較を行っていることである。アジアにおけるICT産業の発展は著しく、地域的な産業集積を形成して国際的分業構造の側面をもっているが、その発展パターンは各国・地域ごとに一様ではない。ITアウトソーシングに強みを持つ中国、ソフトウェア産業に強みを持つインド、パソコン・ハードウェア組み立てに強みをもつ台湾、DRAM半導体に強みを持つ韓国である。中国一国においても北京、上海、大連の各地域においても地域的産業集積の特色を持っている。これらのアジア各国・地域のIT人材と産業集積の発展パターンの比較研究は、未開拓の分野であり、

その研究の意義は大きい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

中川涼司・夏目啓二・羽淵貴司・陸雲江(2009)「中関村科技園区海淀園創業服務中心調査報告」『龍谷大学経営学論集』第49巻第2号(10月)84-92頁、査読有。

石上悦朗・夏目啓二・中原裕美子(2009)「ウィプロ・リミテッド日本オフィスの訪問記録」『龍谷大学経営学論集』第49巻第1号(6月)75-78頁、査読有。

中原裕美子・中川涼司・齋藤敦(2009)「中華經濟研究院國際研究所調査報告書 台湾調査報告書(2)」龍谷大学社会科学研究所『社会科学研究年報』第39号126-131頁、査読無。

中原裕美子・中川涼司・齋藤敦(2009)「新竹科学工業園区管理局調査報告書 台湾調査報告書(1)」龍谷大学社会科学研究所『社会科学研究年報』第39号121-125頁、査読無。

中川涼司・夏目啓二・羽淵貴司・陸雲江(2008)「中訊軟件集團訪問記録」『龍谷大学経営学論集』第48巻第2号(10月)29-32頁、査読有。

羽淵貴司・細川孝(2008)「NECのオフショア開発」『龍谷大学経営学論集』第48巻第1号(6月)66-79頁、査読有。

中原裕美子・夏目啓二・石上悦朗(2008)「在日インドIT企業への調査報告書 タタ・コンサルタンシー・サービズ」龍谷大学社会科学研究所『社会科学研究年報』第38号101-106頁、査読無。

[学会発表](計10件)

日本国際経済学会関西支部研究会
(大阪産業大学梅田サテライト教室)
2010年1月30日(土)午後3時~5時
夏目啓二:「アジアICT企業の競争力と人材の国際移動」

多国籍企業学会西部部会12月例会
キャンパスプラザ京都 6F 第一講習室
2009年12月19日(土)
夏目啓二(龍谷大学):「アジア企業の競争力とIT人材の国際移動」

日本経営学会第83回全国大会

2009年9月1~4日(九州産業大学)
ワークショップ「アジアの世紀 - 国際移動するIT人材 -」

9月3日13時10分~15時10分

司会: 細川孝(龍谷大学)、斉藤敦(徳島文理大学)

第1報告: 夏目啓二(龍谷大学): 「アジアの国際競争力とIT人材の国際移動」

第2報告: 中原裕美子(九州産業大学): 「台湾におけるIT人材の国際移動の新段階」

第3報告: 中川涼司(立命館大学): 「中国のIT企業家と社会的形成モデル」

4 第16回アジア経営学会西部部会

2009年5月30日開催(立命館大学朱雀キャンパス1階多目的室)

共通テーマ「続・アジアの競争力」(14時50分~17時40分)

第1報告: 夏目啓二(龍谷大学): 「アジアとIT人材の国際移動」

第2報告: 石上悦朗(福岡大学): 「インドIT産業の発展とIT人材育成」

第3報告: 羽瀧貴司(天津商業大学): 「中国における日系IT企業の人材育成」

第34回日本比較経営学会全国大会

2009年5月22・23・24日(沖縄国際大学)
ワークショップ「IT人材の国際労働力移動」(9-204教室)

報告者: 陸雲江(龍谷大学大学院): 「日本向けオフショア開発と中国のソフトウェア産業における技術移転 - ブリッジSEを考察対象に」。

報告者: 林尚毅(東京国際大学): 「日系IT企業のアジア人材戦略」

〔図書〕(計13件)

夏目啓二「アジアICT企業の国際競争力と人材の国際移動」夏目啓二編著『アジアICT企業の競争力 - ICT人材の形成と国際移動』(ミネルヴァ書房刊、2010年4月、1-28頁)

上田智久「ICTイノベーションにおける人材の役割」夏目啓二編著『アジアICT企業の競争力 - ICT人材の形成と国際移動』(ミネルヴァ書房刊、2010年4月、48-67頁)

細川孝「日本政府のICT戦略と人材育成政策」夏目啓二編著『アジアICT企業の競争力 - ICT人材の形成と国際移動』(ミネルヴァ書房刊、2010年4月、68-84頁)

林尚毅「日系ICT企業のアジア人材戦略」夏目啓二編著『アジアICT企業の競争力 - ICT人材の形成と国際移動』(ミネルヴァ書房刊、2010年4月、87-101頁)

斉藤敦「ヨーロッパICT企業のアジア人材戦略」夏目啓二編著『アジアICT企業の競争力 - ICT人材の形成と国際移動』(ミネルヴァ書房刊、2010年4月、102-117頁)

中川涼司「中国ICT企業家の世代交代とビジネス・モデル」夏目啓二編著『アジアICT企業の競争力 - ICT人材の形成と国際移動』(ミネルヴァ書房刊、2010年4月、121-138頁)

羽瀧貴司「在中日系企業における帰国人材の役割」夏目啓二編著『アジアICT企業の競争力 - ICT人材の形成と国際移動』(ミネルヴァ書房刊、2010年4月、139-155頁)

石上悦朗「インドICT産業の発展と人材管理」夏目啓二編著『アジアICT企業の競争力 - ICT人材の形成と国際移動』(ミネルヴァ書房刊、2010年4月、159-179頁)

中原裕美子「台湾ICT人材の国際移動の新段階」夏目啓二編著『アジアICT企業の競争力 - ICT人材の形成と国際移動』(ミネルヴァ書房刊、2010年4月、180-195頁)

宋娘沃「韓国ICT産業に於ける人材の国際移動」夏目啓二編著『アジアICT企業の競争力 - ICT人材の形成と国際移動』(ミネルヴァ書房刊、2010年4月、196-220頁)

夏目啓二「アジアICT人材の形成と国際移動の新段階」夏目啓二編著『アジアICT企業の競争力 - ICT人材の形成と国際移動』(ミネルヴァ書房刊、2010年4月、221-229頁)

夏目啓二「グローバル企業のITサービス・ネットワーク」赤羽新太郎・夏目啓二・日高克平編著『グローバル化と経営学』(ミネルヴァ書房、2009年、17-37頁)

石上悦朗「グローバル化とIT-BPO産業の発展」赤羽新太郎・夏目啓二・日高克平編著『グローバル化と経営学』(ミネルヴァ書房、2009年、122-143頁)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

夏目 啓二(NATSUME KEIJI)
龍谷大学・経営学部・教授
研究者番号: 10175515

(2) 研究分担者

石上 悦朗(ISHIGAMI ETSURO)
福岡大学・商学部・教授
研究者番号: 00151358

中川 涼司 (NAKAGAWA RYOJI)
立命館大学・国際関係学部・教授
研究者番号：3019804

細川 孝 (HOSOKAWA TAKASHI)
龍谷大学・経営学部・教授
研究者番号：003000252

林 尚毅 (HAYASHI NAOKI)
東京国際大学・国際関係学部・准教授
研究者番号：10300451

宋 娘沃 (SONG NANG-OK)
中国短期大学・その他・准教授
研究者番号：50369766

斉藤 敦 (SAITO ATUSHI)
徳島文理大学・総合政策学部・講師
研究者番号：30330749

中原 裕美子 (NAKAHARA YUMIKO)
九州産業大学・経営学部・講師
研究者番号：40432843

(3)連携研究者

(4)研究協力者

田中 莊子 (TANAKA SHOKO)

マーティン・ケニー (Martin Kenney)

羽淵 貴司 (HABUCHI TAKASHI)

陸 雲江 (LU YUNJIANG)